

鹿児島県の県民性(全体編 2)

——年齢要因からの分析——

脇 勝 嘉・篠 原 優

Social Character of the Native People of Kagoshima Prefecture (the whole paper 2)—Research and Analysis in Terms of Age.—

Katsuka WAKI and Yutaka SHINOHARA

内 容	頁
1. 目 的15
2. 方 法16
2.1—対象 2.2—出身別について 2.3—調査票	
2.4—年齢の層別 2.5—調査年度及び面接者	
3. 結 果17
3.1 年齢層別の鹿児島県民の特有的性格特徴—全国資料との比較	
3.1.1 項目選択肢別の特有的性格特徴の検出	
3.1.2 領域別及び全項目を通じての特有的性格特徴の検出	
3.2 年齢層別の鹿児島県民の通有的及び特異的性格特徴—県内年齢層間比較	
3.2.1 項目選択肢別の通有的及び特異的性格特徴の検出	
3.2.1.1 年齢層 20～39 才の特徴	
3.2.1.2 年齢層 40～59 才の特徴	
3.2.1.3 年齢層 60 才以上の特徴	
3.2.1.4 三年令層三様の特徴	
3.2.2 領域別及び全項目を通じての年齢層別の類型	
3.2.2.1 領域別の類型	
3.2.2.2 全体的な類型	
3.3 鹿児島県男女間の通有的及び特異的性格特徴—県内男女間比較	
3.3.1 項目選択肢別の通有的及び特異的性格特徴の検出	
3.3.2 領域別及び全項目を通じての男女の類型	
4. 要 約30

1 調 査 目 的

本調査は鹿児島県の県民性を、主として権威、価値、社会、家庭、教育、異性等に関する態度的特性の観点から、その現在の実態を把握しようとする試みである。調査期間は昭和41年10月から同44年7月までであった。各年度の調査結果は、その都度、関係学会及び当学部研究紀要に発表してきた。本報告は4年間にわたる調査によって得られた全資料をまとめて整理分析したものである。

る。資料は主として次の視点から整理分析した。

(1) 統計数理研究所国民性調査委員会（以下統数研と略称する）の“日本人の国民性”に関する調査結果との比較検討。

(2) 本調査から得られた県内資料の人口学的諸属性の視点からの整理分析。本報告は年令要因から調査資料を整理分析した結果の一部である。

2 方 法

2.1 調査対象

調査地点としては島嶼部をふくめて9市20町村62地点を選定した。これらの調査地点の選挙人名簿にもとづいて等間隔抽出法によって面接調査のサンプルを選定した。表1を参照されたい。総サンプル数 2,147 人、有効回答者総数 1,557 人である。

表1 標本数，抽出率，面接率等

調 査 年 度	調 査 地 区	標本数	有 効 回 答 者 数					(注5) 抽出率	面接率
			Na(注3)			NN(注4)	合 計		
			男	女	計				
41	本 土 大 島 種 子 屋 久 島 全 土 (注1)	407	97	129	226	60	286	15%	70.3%
42		249	71	94	165	22	187	15%	75.1%
43		402	119	141	260	38	298	0.89%	74.1%
44		1089	319	352	671	115	786	0.1%	72.2%
合 計		2147	606	716	1322	235	1557	0.19%	72.5%
(注2) 44	大 島 甕 島	117 24	41 8	27 10	68 18	15 2	83 20		

注1. 昭和44年度の調査地区には種子，屋久両島はふくまれていない。

注2. 昭和44年度の大島及び甕島は全年度の県全土の調査にふくまれている。

注3. 注4.については2.2節を参照されたい。

注5. 昭和41年及び同42年度調査の抽出率は調査対象として選定した市町村の調査地点の選挙有権者数に対する標本数の百分率である。昭和43年度調査の抽出率は同年6月の種子，屋久両島の全選挙有権者数に対する標本数の百分率である。両島の市町村への標本数の割当てはその市町村の有権者数に大体比例させた。昭和44年度調査の抽出率は同年3月の種子，屋久両島を除く鹿児島県の全有権者数に対する標本数の百分率である。標本数1089人のうち120人を麓地区（旧外城士の居住地区）に割当てた。[この人数に昭和41年度調査にふくまれる43人を加えると麓地区のサンプルの大きさは164人である。]残り969人のうち407人（42%）を市区に，562人（58%）を町村区に割当てた。各市町村への標本数の割当ては昭和43年の場合と同一方式によって行った。合計欄の抽出率は昭和44年3月の鹿児島県の全有権者数に対する百分率である。

2.2 出身別について

調査票の基本項目に対する回答にもとづいて被面接者を non-natives (NN) と natives (Na) に分類した。NN は被面接者本人は勿論その父母またはそのいずれか一方が鹿児島県以外の出身者及び15年以上（昭和41，42年調査では10年以上）鹿児島県外に居住したことのありものである。それ以外のものを生粋の鹿児島人とみて Na に一括した。表1に示すとおり有効回答者1,557人

のうち Na は 1,322 人 (84.9%), NN は 235 人 (15.1%) いた。本報告はすべて Na に関するものである。

2.3 調 査 票

調査票は被面接者個人の人口学的諸属性に関する質問（以下基本項目と称する）と被面接者の主として態度的特性に関する質問項目の二部からなっている。後者は統数研の国民性調査票から選択した21項目^(註1)、牛島義友教授の権威主義尺度から選択した6項目、われわれが作成した8項目計35項目^(註2)から成立している。

注1 人生の善悪に関する項目は前二者の調査票に共通であるが、便宜上前者の項目数に数えた。

注2 われわれが作成した項目のうち誕生日と七五三のお祝に関する質問は昭和43年度調査から2項目に分立した。

2.4 年令の層別

年令は次の二方式によって三年令層に分類した。(1) 20～39才, 40～59才, 60才以上。(2) 20～39才, 40才台, 50才以上。後者の方式は統数研の調査資料との比較検討の便宜のためその層別法を参照したものである。(2)の方式によって層別してあるのは、次の6項目である。項目3.2, 4.1, 5.1, 5.2, 5.4, 6.1。なお統数研調査票から採用した21項目のうち項目5.6, 6.5, 7.1, 7.2については年令層別の回答率の掲載がなく、項目3.6については回答のまとめ方になお不明に思われる点があるので統数研資料との比較は行なわなかった。

年令層別男女別の有効回答者数は、項目によって多少の差はあるが、最多の場合次表のとおりである。

層 別 方 式	20～39 才			40～59 才 (40才台)			60才以上 (50才以上)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
(1)	222	288	510	245	287	532	139	141	280
(2)	220	288	508	138	183	321	246	246	492

2.5 調査年度及び面接調査者

調査年度は表1に示したとおりである。面接調査者は鹿児島県本土及び甌島の調査においては鹿児島大学の学生であり、種子屋久の両島及び奄美大島の調査においては調査地点をその学校区にふくむ小学校の教諭である。

3 結 果

3.1 年令層別の鹿児島県民の特有的性格特徴——項目選択肢別、領域別、全体別——

3.1.1 項目選択肢別の特有的性格特徴の検出

前述のとおり、われわれの調査票には統数研の国民性調査票から選択したものが21項目ふくまれている。これらのうち年令層別の資料が掲載されていない5項目を除いた残りの16項目に対する被

面接者の回答率と統数研のそれとを三年令層ごとに比較すると、項目の各選択肢ごとに表2に示す8種のパターンが可能である。符号≠は両者の回答率の差が5%またはそれ以下の水準で統計的に有意であることを、符号=は同水準において有意差がみとめられないことを示す。

表2 年令層別の鹿児島県民の特有的性格特徴判定のためのパターン表

パターン	年令層	20~39才	40~59才 (40才台)	60才以上 (50才以上)
	比較項	鹿児島対全国	鹿児島対全国	鹿児島対全国
P ₁		=	=	=
P ₂		=	=	キ
P ₃		=	キ	=
P ₄		キ	=	=
P ₅		=	キ	キ
P ₆		キ	キ	=
P ₇		キ	=	キ
P ₈		キ	キ	キ

P₁は三年令層のいずれにおいても鹿児島県と全国の回答率間に有意差がみとめられない項目選択肢である。従ってP₁に属する項目選択肢の内容は国民的性格特徴であるということができよう。これに対してP₈は三年令層のいずれにおいても回答率間に有意な差がみとめられるものである。従ってP₈の項目選択肢の内容はすべての年

令に通ずる鹿児島県民の特有的性格特徴をあらわすものということができよう。

P₂とP₆、P₃とP₇、P₄とP₅はそれぞれ対照的なパターンである。P₂は60才以上（層別方式(2)に属する6項目では50才台以上）の年令層の、P₃は40~59才（前記6項目では40才台）の年令層の、P₄は20~39才の年令層の鹿児島県民の特有的性格特徴を示すものであるということができよう。これに対してP₅は40才以上の、P₆は20~59才（前記6項目では49才まで）の、P₇は20~39才及び60才以上（前記6項目では50才以上）の県民の特有的性格特徴を示すものであると考えることができよう。

この表2の基準に従って各項目選択肢のパターンを決定したものが後にかかげた表3である。8種のパターンは更に次の4種にまとめられる。

(A) P₁ このパターンに属するものは次の7項目7選択肢である。3.1 金銭・財産を最も大切なものとしてあげる、3.2 ロー秀吉はいつの世でも若者の手本であるという見方に対する反対意見、3.3 ローまじめに勉強して名声をあげる生活方式の選好、4.2 (ハ・=)一国会議員選挙の投票に消極的なもの、6.1 イー性善説の信奉、6.3 ハー自然に対して征服的志向をとる、以上の7選択肢に対する回答率は、6.1 イが30%前後であることを除いて、いずれも極めて低い。

(B) 一年令層においてのみ有意差がみとめられるもの、すなわちP₄、P₃、P₂。

P₄ 20~39才の年令層において有意差がみとめられたのは次の3項目3選択肢である。2.3 イー上役の誤解はその場で解くというもの(51.7%, 41.5%)。2.1 ロー自分の考えを抑えて世の中のしきたりに従った方がよい(22.5%, 33.2%)及び2.4 イーすぐれた政治家へ万事を一任することを支持する(22.2%, 30.8%)。【注. カッコ内の数値は前者が鹿児島県の、後者が統数研調査の回答率。以下同様。】

P₃ 40~59才の年令層において有意差がみとめられたものは次の4項目5選択肢である。3.3 ホー世の中の不正をおしのけて清く正しい生活方式の選好(33.1%, 19.5%)、3.1—最も大切なものと

して子供をあげたもの(9%, 15.9%), 幸福, 愛情などをあげたもの(16.2%, 21.5%), 5.4ロ—子供に早くから金銭の貴重なことを教えることに反対するもの(16%, 25%), 6.2イ—雇傭関係を仕事の範囲内に限定する考え方を肯定するもの(19.3%, 17%)はともに鹿児島県の方が少ない。

P₂ 60才以上の年齢層において有意差がみとめられたものは次の3項目3選択肢である。6.3イ—人間と自然の調和関係の肯定者(36.7%, 22.9%), 7.4イ—主婦の家事専従の支持者(83.5%, 68.2%)は鹿児島県の方が多い。4.1ロ—労働組合に好意的なもの(41.2%, 57%)は鹿児島県の方が少ない。

(C) 二年令層において有意な差がみとめられるもの, すなわち P₇, P₆, P₅。ただし P₇に属する項目選択肢はなかった。

P₆ 20~39 及び 40~59 の二年令層においてともに有意差がみとめられたのは次の5項目6選択肢である。2.3ハ—上役の誤解はそのまま聞いておいて, あとからもそれを解くことはしないというもの(3.9%—20.5%, 3.2%—21.9%), 3.3イ—くらし方として金持になることを選好するもの(10.6%—16.4%, 11.9%—18.9%), 3.3ニ—その日その日をのん気にくらすいき方の選好,(8%—15.8%, 9.8%—23.5%), 4.2ロ—国会議員の選挙にはなるべく投票するもの(29%—36.2%, 20.6%—27.1%), 5.2イ—体面重視の教育方針の支持者(17.1%—30%, 31.8%—40%)は鹿児島県の方が少ない。6.2ロ—雇傭関係を親子関係に擬制視するものは20~39才ではより少なく(73.7%, 82.1%), 40~59才ではより多い(83.6%, 75.3%)。[注. カッコ内の二対の前者は20~39才, 後者は40~59才の回答率。対内の前者は鹿児島県, 後者は統数研調査の回答率。]

P₅ 40~59才, 60才以上の二年令層においてともに有意差がみとめられたのは次の2項目2選択肢である。3.1—最も大切なものとして子供, 家族をあげたもの(17.1%—29.3%, 16.1%—31.3%)及び7.4ハ—主婦の家事専従に関する賛否の問に対する中立的回答者(8.5%—14.1%, 6.8%—13.2%)は鹿児島県の方が少ない。

(D) 三年令層のすべてにおいて有意差がみとめられたもの, すなわち P₈に属するものは14項目17選択肢である。これらのうち鹿児島県民の回答率が統数研調査のそれよりも高いものは次の9項目10選択肢である。2.3ロ—上役の誤解は後から解く。3.1 最も大切なものは健康である。3.3ハ—このみにあつたくらし方の選好者。4.2イ—積極的投票行動者。5.1イ—自由主義教育の肯定者。5.2ロ—体面より本心尊重の教育の肯定者。5.5(イ, ロ)—中学校の男女共学制の支持者。6.1—性悪説(ロ), 善悪兼有説(ハ)の信奉者。6.3ロ—自然の利用観。

鹿児島県民の回答率が有意に低いものは次の7項目7選択肢である。2.1イ—世の中のしきたりに対して自主行動。2.4ロ—政治家への一任に反対。3.2イ—立身出世主義(秀吉の高評価)の肯定。4.1イ—労働組合に非好意的。5.1ロ—厳格主義教育の支持者。5.4イ—金銭についての早期教育の肯定者。5.5(ハ, ニ)—中学校の男女共学制に否定的。

3.1.2 領域別及び全項目を通じての特有的性格特徴の検出

統数研の“日本人の国民性”の分類法(PP. 458~459)に倣って, 各項目の各選択肢をそのあ

らわす内容に応じて現代型，中間型，前代型の三類型に分類した。（この分類に当ってはDK回答は除外した。）現代型というのは伝統的な考え方ではないところの，いわば新しい現代的といえる考え方を示しているものである。これに対して前代型というのはどちらかといえば伝統的な古いと考えられる意見態度を示すものである。中間型は以上の2つの類型の中間に位置する選択肢である。一例を示すと，項目2.1「あなたは，自分が正しいと思えば，世の中のしきたりにそむいても，自分の考えをおし通すべきだと思いますか。それとも世の中のしきたりに従った方がよいと思いますか」に対して次の4つの選択肢を設けた。（イ）おし通すのがよい，（ロ）従うのがよい，（ハ）場合による，（ニ）わからない。前三選択肢のうち（イ）を現代型，（ロ）を前代型，（ハ）を中間型に分類した。

次に現代型の回答に3点，中間型の回答に2点，前代型の回答に1点を配点することによって，各項目を，その各選択肢の肯定者数にもとづいて，数量化をこころみた。なお下記の7項目は，その選択肢の類型化が困難または不可能であるので除外した。3.1，3.6，4.2，7.1，7.2，8.3，8.5更に全質問項目を，その問題としている態度領域に従って，また統数研の分類を参照して（同書PP. 397～401）次の7領域にまとめた。（1）個人的態度に関するもの，（2）日常身の社会に対する意見態度に関するもの，（3）社会政治に関するもの，（4）子供の躾，教育に関するもの，（5）男女差別に関するもの，（6）家族・家庭に関係あるもの，（7）権威主義に関するもの。

以下の諸表には，項目選択肢別回答率の他に，前述の手続きによって項目別に，領域別に及び項目全体にわたって算出した各年齢層群の平均が示してある。表4，5，6は前述の14項目に関する鹿児島県及び全国のそれぞれ項目別，領域別及び全項目にわたる平均である。なおこれらの表においては項目6.1は個人的態度の領域にふくめてある。

表4 鹿児島県及び全国の年齢層別項目別平均

領域	項目	20～39才		40～59才(40才台)		60才以上(50才以上)	
		鹿児島	全国	鹿児島	全国	鹿児島	全国
個人的態度	2.1	2.044	2.133	1.470(－)	2.112	1.479(－)	1.756
	3.3	2.325	2.129	2.092	2.175	1.548(－)	2.020
	6.1	2.143	2.460(+)	2.199	2.520(+)	2.148	2.536(+)
	6.3	2.090	2.147	1.989	2.072	1.900	1.932
身 辺	2.3	2.508(+)	2.261	2.428(+)	2.226	2.267	2.315
	3.2	1.151(－)	1.138(－)	1.028(－)	1.068(－)	1.034(－)	1.045(－)
	6.2	1.333(－)	1.266(－)	1.200(－)	1.368(－)	1.150(－)	1.272(－)
政社 治・会	2.4	1.778	2.179	1.398(－)	2.016	1.224(－)	1.707
	4.1	2.802(+)	2.579(+)	2.709(+)	2.470(+)	2.619(+)	2.461(+)
躾・ 教育	5.1	2.416(+)	1.474(－)	2.230	1.336(－)	2.225	1.286(－)
	5.2	2.588(+)	2.256	2.308	1.948	2.087	1.788
	5.4	2.225	2.396(+)	2.502(+)	2.432(+)	2.566(+)	2.646(+)
差男 別女	5.5	2.913(+)	2.643(+)	2.792(+)	2.498(+)	2.501(+)	2.267
	7.4	1.285(－)	1.270(－)	1.186(－)	1.257(－)	1.184(－)	1.359(－)

仮りに平均値 1.65～2.35 は中間型として符号±で，平均値 2.35 以上のものは現代型として符

表5 鹿児島県及び全国の年齢層別領域別平均

領域	20~39才		40~59才 (40才台)		60才以上 (50才以上)	
	鹿児島	全国	鹿児島	全国	鹿児島	全国
個人的態度	2.151	2.234	1.938	2.220	1.769	2.056
対身辺的態度	1.665	1.188(-)	1.585(-)	1.554(-)	1.484(-)	1.211(-)
社会・政治	2.290	2.379(+)	2.053	2.241	1.922	2.084
躰・教育	2.410(+)	2.042	2.337	1.905	2.293	1.907
男女差別	2.099	1.957	1.989	1.878	1.843	1.813

号+で、平均値1.65以下のものは前代型として符号-で示すと、表4, 5, 6は表7のようにまとめることができる。これら4つの表の平均値をそれが現代型(+)であるが、前代型(-)であるかという観点から点検すると、次のようにのべることができよう。

表6 鹿児島県及び全国の年齢層別の総平均

年齢層	鹿児島県		全国		t
	平均	分散	平均	分散	
20~39	2.114	0.285	2.024	0.244	ns
40~59	1.967	0.331	1.964	0.234	ns
60才以上	1.852	0.301	1.885	0.247	ns

表7 鹿児島県と全国共通の14項目の平均の符号表示

領域	20~39才			40~59才			60才以上			項目数									
	+	±	-	+	±	-	+	±	-										
個人的態度	0	4	0	1	2	0	0	3	1	3	0	1	3	0	4				
対身辺的態度	1	0	2	0	1	2	1	0	2	0	1	2	0	1	2	3			
社会・政治	1	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1	2			
躰・教育	2	1	0	1	1	1	1	2	0	1	1	1	1	2	0	1	1	3	
男女差別	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	2		
全体	5	6	3	4	6	4	4	5	5	4	6	4	3	5	6	3	7	4	14

(1) 個人的態度領域。項目2.1では40~59才及び60才以上の年齢層は前代型である。全国の方は中間型である。項目3.3では60才以上の県民は前代型である。全国の方は中間型である。項目6.1では全国の方はどの年齢層においても現代型であるが、鹿児島県民は三年令層とも中間型である。項目別には前述の点において差異があるが、個人的態度領域としてまとめてみると鹿児島県は全国と同様に中間型に位置している。

(2) 対身辺的態度領域。項目2.3においては20~39及び40~59才の二年令層において鹿児島県民は現代型に属している。これに対し全国は中間型である。項目3.2, 6.2においては三年令層とも全国と同様に前代型であって、両者の間に差異はない。これらをまとめて対身辺的態度についてみると、鹿児島県民の20~39才の年齢層が中間型に位置している他は、すべて両者の間に差異はなく、前代型に位置している。

(3) 社会・政治に対する態度領域。項目2.4において40~59才及び60才以上の二年令層において鹿児島県民は前代型である。全国の方は中間型である。項目4.1においては三年令層を通じて両者とも現代型に属している。社会・政治領域をまとめてみると、20~39才の年齢層において全国が現代型であるのに対して、鹿児島県の方は、他の年齢層ともどもに、中間型に位置している。

(4) 躰・教育の領域。項目 5.1 に関しては鹿児島県民は 20～39 才の年令層において現代型，その他の年令層では中間型である。これに対し全国の方は三年令層ともすべて前代型である。項目 5.2 に関しては 20～39 才の年令層において，全国は中間型であるが，鹿児島県民は前代型である。残りの二年令層においては両者はともに中間型に属している。項目 5.4 に関しては 20～39 才の年令層において，全国が現代型であるのに対して，鹿児島県民は中間型である。これらの項目を一括した躰・教育の領域においては 20～39 才の年令層の鹿児島県民は現代型に位置している。他の二年令層においては全国と同様中間型にある。ただ 40～59 才の年令層では鹿児島県民の平均値は現代型のそれに近接している。

(5) 男女差別の領域。項目 5.5 においては全国の 60 才以上の年令層が中間型である以外は，両者ともすべての年令層において現代型である。これに反して項目 7.4 では両者ともすべての年令層において前代型に属している。2 項目を領域にまとめると鹿児島県も全国もともに三年令層を通じて中間型に位置している。

(6) 表 6 の資料は以上の 14 項目全体を通じて鹿児島県及び全国の年令層別の総平均である。これらの資料を t-検定にかけたところ，いずれの年令層内においても両者の間に有意な差はみとめられなかった。また前記の符号表示法によれば両者の三年令層の平均値はすべて中間型に位置している。

以上鹿児島県民の各年令層の性格特徴は，前記 14 項目によって測定した範囲内においては，全体的には，全国民のそれと同じく，中間型に属しており，従って他と特に異った特有的特徴はみられない。但し表 3, 4, 5, 7 の資料の点検から判明したとおり，項目選択肢別，項目別，領域別には各年令層において，多数のあるいは若干の特有的性格特徴とみなし得るものが発見されている。この点からいえば性格の全体像において特有性がみとめられないのはプラス，マイナスの相殺作用の結果であるといえることができる。

3・2 年令層別の鹿児島県民の通有的性格特徴と特異的性格特徴

3.2.1 項目選択肢別の通有的及び特異的性格特徴の検出

前述したとおり，鹿児島県民をその年令によって 20～39 才，40～59 才（40 才台），60 才（50 才）以上の三年令層に類別した。各年令層群の各項目選択肢に対する回答率を一对比較して 5%水準における有意差の有無にもとづいて，表 2 と同様に，選択肢のパターンを決定した。表 8 がそれである。

3.1.1 にのべたように符号≠は 5%の水準において両年令層の回答率の差が有意であることを，符号=は同水準において有意差がみとめられないことを示す。

P₁に属する項目選択肢は三年令層群の回答率

表 8 年令層別の鹿児島県民の通有的及び特異的性格特徴判定のためのパターン表

比較項 パターン	20～39対 40～59(40台)	40～59(40台) 対60(50)以上	20～39対 60(50)以上
	P ₁	=	=
P ₂	=	=	キ
P ₃	=	キ	=
P ₄	キ	=	=
P ₅	=	キ	キ
P ₆	キ	キ	=
P ₇	キ	=	キ
P ₈	キ	キ	キ

のすべての対において有意差がみとめられないものである。従ってすべての年令層の鹿児島県民が通有的に具有している性格特徴であるということが出来る。これに対して P_8 は三年令層のすべての対において有意な差が存するものである。従って年令層ごとの特異的な性格特徴であると考えることが出来る。

P_2 と P_6 , P_3 と P_7 , P_4 と P_5 はそれぞれ対照的なパターンである。 P_3 においては 20~39 才の年令層が, P_2 においては 40~59 才の年令層が, P_4 においては 60 才以上の年令層が他の両年令層の中間に位置している。 P_7 , P_6 , P_5 はそれぞれ 20~39才, 40~59 才 (40 才台), 60才 (50才) 以上の年令層の特異な性格特徴を示すものであるということが出来る。

各項目選択肢別の回答率とそのパターンを示したものが後にかかげた表 9 であり, これにもとづいてパターン別に項目選択肢数を数えると次の表 10 のとおりとなる。

表10 パターン別項目選択肢数 (28項目について)

部 類	パ ター ン	男 性 群	女 性 群	全 県 民
A	P_1	28項目57選択肢	27項目46選択肢	26項目44選択肢
B	P_3	6 " 6 "	3 " 3 "	5 " 5 "
	P_2	12 " 13 "	8 " 8 "	6 " 7 "
	P_4	4 " 5 "	8 " 9 "	4 " 4 "
C	P_7	9 " 13 "	13 " 15 "	11 " 15 "
	P_6	な し	2 " 2 "	2 " 2 "
	P_5	14 " 19 "	13 " 19 "	18 " 22 "
D	P_8	5 " 6 "	13 " 15 "	14 " 20 "

注1 項目 3・6 については選択肢(イ)を肯定したものについてのみ数えた。
以下同様。

注2 項目 5・5, 5・6 については選択肢イロ, ハニを結合して数えた。
以下同様。

表 10 の資料について指摘できる重なることは次のとおりである。(1) 通有的性格特徴を示す P_1 に属する項目選択肢の数が多い。この傾向は男女群ともにみとめられる。(2) B部類に関しては, 男性群の P_2 を除いて, 項目選択肢数が少ない。(3) C部類に関しては 20~39 才の年令層の特異的性格特徴をあらわす P_7 と 60 才以上の年令層の特異的特徴を示す P_5 の項目選択肢数が多い。これと対照的に 40~59 才の年令層の特異的性格特徴を示す項目選択肢は男性群では皆無であり, 女性群及び県民全体でも僅かに 2 項目 2 選択肢である。(4) P_8 に属する項目選択肢数は女性群及び県民全体においては, P_1 のそれに比較すれば約半数であるが, 相対的には多い方である。男性群においては極めて少数である。

以下に県民の各年令層の他の年令層に対する 特異的性格特徴を表わす 項目選択肢の内容を略述する。

3.2.1.1 年令 20~39 才の県民の特異的性格特徴

3.2.1.1.1 年令 20~39 才の県民全体の特異的性格特徴 (P_7)。(a) この年令層の回答率が他の二

年令層のそれより高い項目選択肢。3.6.2—和服, 4.2. ロ—国会議員選挙にはなるべく投票する, 5.3. ハ—青年の厳格な鍛練について中立的回答, 5.4. ロ—金銭に関する早期教育に反対, 7.3. ハ—女性の飲酒喫煙について中立的回答, 8.2. イ—誕生日のお祝いをかかさず行なう, 8.4. ヘ—結婚について外的形式的諸条件は考慮しないでよろしい。(b) この年令層の回答率が他の二年令層のそれよりも低い項目選択肢。2.5. イ—法律の強化に賛成, 3.2. イ—立身出世主義（秀吉の高評価）に賛成, 3.6.2 家族制度, 5.1. ロ—厳格主義教育の肯定, 5.3. イ—青年の厳格な鍛練の支持, 5.4. イ—金銭についての早期教育の肯定, 7.5. ロ—女性の学校長は無理である, 8.4. ロ—家柄を結婚の考慮条件とする。

3.2.1.1.2 年令20～39才の男性群の特異的性格特徴。(a) 2.2. ハ—親への従順性について中立的回答, 2.3. イ—上役の誤解はその場で解く, 2.4. ロ—政治家への一任に反対, 3.6.2—和服, 5.3. ハ—青年の厳格な鍛練に対し中立的回答, 5.4. ロ—金銭についての早期教育に反対, 8.4. ヘ—結婚について外的形式的諸条件は考慮しないでよい。(b) 2.5. イ—法律の強化に賛成, 3.6.2 家族制度, 5.2. イ—体面尊重の教育方針に賛成, 5.3. イ—青年の厳格な鍛練の支持, 5.4. イ—金銭についての早期教育の肯定, 8.4. イ—家のつりあいを結婚の考慮条件とする。

3.2.1.1.3 年令20～39才の女性群の特異的性格特徴。(a) 2.5. ハ—法律の強化について中立的回答, 5.3. ハ—青年の厳格な鍛練に中立的回答, 7.4. ハ—主婦の家事専従の可否について中立的回答, 8.1. ロ—家の後継者はどの子でもよい, 8.2. イ—誕生日のお祝いをかかさず行なう。(b) 2.4. イ—政治家への一任に賛成, 3.2. イ—立身出世主義（秀吉の高評価）の肯定, 3.6.2—礼儀作法, 家族制度, 5.1. ロ—厳格主義教育の肯定, 5.3. イ—青年の厳格な鍛練に賛成, 5.5. (ハ、=)—中学校の男女共学制に反対, 5.6. (ハ、=)—高校の男女共学制に反対, 7.3. ロ—女性の飲酒喫煙に否定的, 8.4. ロ—家柄を結婚の条件とする。

3.2.1.2 年令40才～59才の県民の特異的性格特徴 (P₆)

県民全体では「2.3. ロ—上役の誤解は後でとく, 6.2. ロ—雇傭関係を親子に擬制視する」点においてこの年令層が高い。男性群ではそのような特徴は存しない。女性群の特異的性格特徴は「2.5. イ—法律の強化に賛成, 7.2. ロ—苦労は女性の方が多い」の2項目であって, とともにこの年令層が有意に高い。

3.2.1.3 年令60才以上の県民の特異的性格特徴 (P₅)

3.2.1.3.1 同上の県民全体の特異的性格特徴 (a) 2.3. ハ—上役の誤解には後からも何もいわない, 3.3. =—のんきな生活方式の選好, 3.7. ロ—他人志向型生活方式の選好, 5.5(ハ、=)—中学校の男女共学制に否定的, 6.5. ロ—飲酒時の非常識行動に対し不寛容, 7.5. ハ—女性の学校長など考えられない, 8.2. ハ—誕生日のお祝いは行っていない, 8.3. イ—年忌年祭をかかさず行なっている, 8.4. —結婚の条件として家のつりあい(イ), 出身地の遠近(=)を考慮する。(b) 2.4. ハ—政治家への一任について中立的回答, 3.2. ハ—立身出世主義（秀吉の高評価）について中立的回答, 3.3. =—のんきな生活方式の選好, 3.4. ロ—権力・経済力の高評価に反対, 3.6.2 芸術, 3.7.

ハ一内面志向型生活方式の選好, 4. 1. ロ一労働組合に好意的態度, 5. 2. ロ一本心重視教育の支持, 6. 1. ハ一人性の善悪について中立的回答, 6. 3. ロ一自然は征服すべきものである。6. 5. ハ一飲酒時の非常識行動に対し中立的態度, 7. 1. イ一楽しみは男性の方が多い, 8. 3. ロ一年忌年祭は行なっていない。

3. 2. 1. 3. 2 同上の男性群の特異的性格特徴 (a) 2. 1. ロ一しきたりへの同調性の肯定, 3. 3. ニ一のんきな生活方式の選好, 3. 4. イ一権力・経済力の高評価に賛成, 5. 5. (ハ, ハ)一中学校の男女共学制に反対, 5. 6. (ハ, =)一高校の男女共学制に反対, 6. 3. イ一人は自然に従うべきである, 7. 3. ロ一女性の飲酒喫煙に否定的。(b) 2. 1. ハ一しきたりに対し中立的態度, 2. 4. ハ一政治家への一任について中立的態度, 2. 5. ハ一法律の強化について中立的回答, 3. 7. ハ一内面志向型生活方式の選好, 4. 1. ロ一労働組合に好意的態度, 5. 5. (イ, ロ)一中学校の男女共学制の支持, 5. 6. (イ, ロ)一高校の男女共学制の支持, 6. 3. ロ一自然は利用すべきである, 7. 1. イ一楽しみは男性の方が多い, 7. 5. ニ一女性の学校長としての能力の肯定, 8. 1. ロ一家の後継者はどの子でもよい。

3. 2. 1. 3. 3 同上の女性群の特異的性格特徴, (a) 2. 3. ハ一上役の誤解については後からも何もいわない, 3. 3. ニ一のんきな生活方式の選好, 3. 7. ロ一他人志向型生活方式の選好, 5. 4. イ一金銭についての早期教育に賛成, 6. 5. イ一飲酒時の非常識行動に不寛容, 7. 5. ハ一女性の学校長など考えられない。8. 3. イ一年忌年祭はかかさず行なっている。(b) 2. 3. 一上役の誤解はその場で解く(イ), 後で解く(ロ), 2. 4. ハ一政治家への一任について中立的回答, 3. 2. ハ一立身出世主義(秀吉の高評価)について中立的回答, 3. 4. ロ一権力・経済力の高評価に反対, 3. 7. 一内面志向型生活方式の選好(ハ), 生活方式の選好に対し中立的回答(=), 5. 2. ロ一本心尊重の教育の支持, 6. 1. ハ一人性の善悪について中立的回答, 6. 3. ロ一人は自然を利用すべきである, 6. 5. ハ一飲酒時の非常識行動に対して中立的態度, 8. 3. ロ一年忌年祭はあまり行なっていない。

3. 2. 1. 4 P₈に属する項目選択肢。このパターンに属するものはある年令層の回答率が他の二年令層の回答率のいずれとも有意に異っているという意味でそれぞれの年令層の特異的性格特徴をあらわしているといえることができる。以下の各項の記述においては回答率の最も高いものを符号++で, 中位にあるものを符号+で, 最も低いものを符号-で示し, かつカッコ内の符号は左から右へ順次に20~39才, 40~59才(40才台), 60(50)才以上の三年令層の回答率を示すことにする。

3. 2. 1. 4. 1 P₈に属する県民全体の年令層別の特異的性格特徴。(a) (-++)型に属するもの, 2. 1. ロ一しきたりへの同調性の肯定, 2. 2. イ一親への従順性の肯定, 2. 4. イ一政治家への一任に賛成, 5. 2. イ一体面重視の教育の肯定, 5. 6. (ハ, =)一高校の男女共学制に反対, 6. 3. イ一人間は自然に従うべきである。6. 4. イ一因果応報の信奉, 7. 3. ロ一女性の飲酒喫煙に否定的, 8. 1. イ一長子を一家の後継に。(b) (+++)型に属するもの。2. 1. ハ一しきたりへの同調性について中立的回答, 2. 3. イ一上役の誤解はその場で解く。2. 5. ハ一法律強化について中立的, 3. 3. ハ一このみに合った生活方式の選好, 5. 5. (イ, ロ)一中学校の男女共学制に賛成, 5. 6. (イ, ロ)一高校の男女共学制に賛成, 6. 4. ロ一因果応報の否定, 7. 5. ニ一女性の学校長としての能力の肯定, 8. 1. ロ一家

の後継者はどの子でもよい。

3.2.1.4.2 P₃に属する男性群の年齢層別特異的性格特徴。(a)(-++)型に属するもの。
2.2.イー親への従順性の肯定, 2.4.イー政治家への一任に賛成, 6.4.イー因果応報の信奉, 8.1.イ
一家の後継は長子に, 8.4.ニー出身地の遠近を結婚の考慮条件とする。(b)(++-)型。6.4.ロー
因果応報の否定。

3.2.1.4.3 P₃に属する女性群の年齢層別特異的性格特徴, (a)(-++)型に属するもの。
2.1.ローしきたりへの同調性の肯定, 2.2.イー親への従順性の肯定, 5.2.イー体面重視の教育の支
持, 6.3.イー人は自然に従うべきである。6.4.イー因果応報の信奉, 8.1.イー一家の後継は長子に,
8.2.ハ一誕生日のお祝いを行っていない。(b)(++-)型)に属するもの。2.1.ハ一しきたりへの
同調性に関し中立態度, 3.1.一最も大切なものは家族, 3.3.ハ一このみに合った生活スタイルの選好,

表 11 項 目 別 平 均 (28項目について)

領域	項目	男性群			女性群			全 体		
		20~39才	40~59才	60才以上	20~39才	40~59才	60才以上	20~39才	40~59才	60才以上
個人的態度	2.1	2.042	1.934	1.763	1.912	1.778	1.504(-)	1.969	1.888	1.610(-)
	3.3	2.287	2.255	2.007	2.354(+)	2.088	2.230	2.325	2.092	2.124
	3.7	2.397(+)	2.398(+)	2.167	2.191	2.107	1.750	2.285	2.242	1.958
	6.3	2.124	2.083	1.948	2.063	1.909	1.854	2.090	1.989	1.900
対身辺態度	2.3	2.533(+)	2.464(+)	2.347	2.489(+)	2.397(+)	2.173	2.508(+)	2.228	2.267
	3.2	1.425(-)	1.358(-)	1.297(-)	1.419(-)	1.259(-)	1.193(-)	1.422(-)	1.303(+)	1.248(-)
	6.2	1.452(-)	1.278(-)	1.265(-)	1.376(-)	1.239(-)	1.418(-)	1.409(-)	1.257(-)	1.343(-)
	6.5	2.383(+)	2.337	2.511(+)	2.432(+)	2.463(+)	2.593(+)	2.410(+)	2.405(+)	2.552(+)
社会・政治	2.4	1.957	1.756	1.547(-)	1.860	1.667	1.414(-)	1.903	1.709	1.486(-)
	4.1	2.650(+)	2.623(+)	1.931	2.173	2.455	2.335	2.621(+)	2.532(+)	2.329
教育	5.1	2.352(+)	1.308(-)	2.247	2.329	2.138	2.126	2.339	2.506(+)	2.187
	5.2	2.622(+)	2.333	2.192	2.428(+)	2.247	1.960	2.511(+)	2.284	2.080
	5.4	2.000	2.259	2.267	2.271	2.386(+)	2.571(+)	2.151	2.331	2.416(+)
男女差別	5.5	2.896(+)	2.853(+)	2.554(+)	2.926(+)	2.737(+)	2.591(+)	2.913(+)	2.792(+)	2.571(+)
	5.6	2.598(+)	2.480(+)	2.153	2.685(+)	2.494(+)	2.289	2.647(+)	2.487(+)	2.214
	7.3	1.145(-)	1.405(-)	1.241(-)	1.390(-)	1.292(-)	2.196	2.210	1.344(-)	1.218(-)
	7.4	1.229(-)	1.172(-)	1.182(-)	1.327(-)	1.198(-)	1.186(-)	1.289(-)	1.186(-)	1.148(-)
	7.5	2.493(+)	2.319(+)	2.218	2.414(+)	2.245	1.984	2.230	2.279	2.100
家庭	8.1	2.815(+)	2.646(+)	2.164	2.756(+)	2.413(+)	2.216	2.782(+)	2.522(+)	2.190
	8.2	2.215	2.196	2.010	2.382(+)	2.173	2.067	2.308	2.184	2.083
	8.4	2.231	1.863	1.773	1.801	1.796	1.620(-)	1.990	1.731	1.693(-)
権威主義	2.2	1.785	1.594(-)	1.391(-)	2.649(+)	1.558(-)	1.388(-)	1.722	1.952	1.367(-)
	2.5	1.590(-)	1.363(-)	1.331(-)	1.531(-)	1.322(-)	1.374(-)	1.558(-)	1.341(-)	1.350
	3.4	2.434(+)	2.451(+)	2.294	2.337	2.341	2.210	2.381(+)	2.394(+)	2.245(-)
	3.5	1.450(-)	1.443(-)	1.405(-)	1.319(-)	1.390(-)	1.411(-)	1.195(-)	1.414(-)	1.408(-)
	5.3	1.411(-)	1.252(-)	1.282(-)	1.429(-)	1.283(-)	1.214(-)	1.421(-)	1.268(-)	1.249(-)
	6.1	1.687	2.182	2.136	2.140	2.213	2.159	2.143	2.199	2.148
	6.4	2.193	1.915	1.595(-)	2.038	1.647(-)	1.360(-)	2.107	1.772	1.480(-)

注1 項目 6.1 はこの表では権威主義領域に分類してある。

注2 項目 3.1, 3.6, 4.2, 7.1, 7.2, 8.3, 8.5 は除外。

注3 表中の符号+は現代型, 符号-は前代型, 符号をつけてないものは中間型である。

5.5. (イ, ロ) — 中学校の男女共学制に賛成, 5.6. (イ, ロ) — 高校の男女共学制に賛成, 6.4. ロ — 因果応報の否定, 7.5. = — 女性の学校長としての能力の肯定。(c) (+ 十 -) 型に属するもの。6.2. ロ — 雇傭を親子関係に擬制視。

3.2.2 領域別及び全項目の年齢層別の類型

3.1.2 にのべた手続に従って28項目の選択肢の類型化及び回答率の数量化を行なった。(項目選択肢の類型化が困難な、または不可能な7項目は除外した。)この手続によって算出した項目別平均は表11に示したとおりである。

表12は前表の資料にもとづいて領域別に現代型(+), 中間型(±), 前代型(-)に属する項目数を示したものである。次の表13は領域別の平均である。表14は年齢層別の総平均である。

表12 領域別現代型, 中間型, 前代型の項目数

領域	年齢層 類型	男			女			全 体			項目数																		
		20~39	40~59	60以上	20~39	40~59	60以上	20~39	40~59	60以上																			
		+ ± -	+ ± -	+ ± -	+ ± -	+ ± -	+ ± -	+ ± -	+ ± -	+ ± -																			
個人的態度	1	3	0	1	3	0	0	4	0	1	3	0	0	4	0	0	3	1	4										
	2	0	2	1	1	2	1	1	2	2	0	2	1	1	2	2	0	2	1	4									
社会・政治	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0	2	0	1	1	0	1	1	0	2										
	2	1	0	0	2	1	0	3	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	3										
躰・教育	3	0	2	3	0	2	1	2	2	3	2	0	2	1	2	1	3	1	5										
	1	2	0	1	2	0	0	3	0	2	1	0	1	2	0	0	2	1	3										
家庭	1	2	0	1	2	0	0	3	0	2	1	0	1	2	0	1	2	0	3										
	1	3	3	1	2	4	0	2	5	1	3	3	0	2	5	0	2	5	7										
計		11	10	7	8	11	9	2	16	10	10	13	5	7	12	9	3	14	11	8	13	7	8	14	6	3	13	12	28

3.2.2.1 領域別の類型について。県民は全体的には40~59才のものが躰・教育領域で、また20~39才のものが家庭領域で現代型である。これに対し60才以上のものは権威主義領域で前代型である。その他のすべての領域においては三年令層とも中間型である。ただし20~39才のものが躰・教育に対する態度は前代型に近接している。以上の外はすべて中間型である。

男性群においては20~39才のものは家庭領域において現代型であり、60才以上のものは権威主義的(前代型)であり、40~59才のものも前代型に近接している。20~39才のものは躰・教育領域と社会・政治領域において現代型に近接している。後者の領域では、60才以上のものは前代型に近い。以上の外はすべて中間型である。

女性群においては60才以上のものの性格特徴は権威主義的(前代型)であり、40~59才のものもこの領域では前代型に近い。20~39才のものは家庭領域において、特に躰・教育領域において現代型に近い。以上の外はすべて中間型である。

3.2.2.2 三年令層群の総平均について。表15は表14の平均値をt検定にかけた結果を示したものである。県民全体においては三年令層のどの比較対においても有意差のあるものはない。男性群においても同様に有意な差のあるものは存していない。女性群においては20~39才と40~59才の間及び40~59才と60才以上の間には有意差はみとめられないが、20~39才と60才以上の間には5%水準で有意差が存している。すなわち前者の平均が後者の平均より有意に大きいということが

表 13 領域別の平均（28項目について）

領 域	男 性 群			女 性 群			全 体			項 目 数
	20～39才	40～59才	60才以上	20～39才	40～59才	60才以上	20～39才	40～59才	60才以上	
個 人 的 態 度	2.213	2.167	1.971	2.130	1.971	1.836	2.168	2.053	1.898	4
社 会 ・ 政 治	1.948	1.859	1.855	1.929	1.840	1.844	1.937	1.798	1.853	4
躰 ・ 教 育	2.304	2.190	1.709	2.017	2.061	1.875	2.262	2.121	1.908	2
男 女 差 別	2.324	1.967	2.235	2.343	2.257	2.219	2.334	2.374(+)	2.228	3
家 庭 義 威 主	2.124	2.046	1.870	2.148	1.993	1.849	2.058	2.018	1.857	5
	2.420(+)	2.235	1.982	2.313	2.129	1.968	2.360(+)	2.146	1.989	3
	1.859	1.743	1.634(-)	1.920	1.679	1.581(-)	1.790	1.758	1.607(-)	7

表 14 鹿児島県内年齢層別総平均

年 令 層	男 性 群		女 性 群		全 体	
	平 均	分 散	平 均	分 散	平 均	分 散
20～39才	2.095	0.224	2.086	0.221	2.066	0.234
40～59才(40才台)	1.983	0.245	1.937	0.217	1.987	0.219
60才以上 (50以上)	1.869	0.179	1.833	0.214	1.857	0.195

表 15 平均値の年齢層間検定

年 令	男 性 群			女 性 群			全 体		
	20～39	40～59	60以上	20～39	40～59	60以上	20～39	40～59	60以上
20～39		0.865	1.917		1.191	2.03*		0.621	1.685
40～59 (40才台)			0.958			0.838			1.069

できる。表14にかかげた9個の平均値は年齢が高いほど漸次小さくなっている。換言すれば前代型に近づいているが、しかしいずれも中間型である。このように鹿児島県民は総体的には三年令層とも中間型であるが、しかしそれはすべての項目、すべての領域において新旧いずれにも偏しない中間型であるというのではなく、現代型、前代型に層する相当多数の項目あるいは若干数の領域があってそれらの相殺作用の結果でもあるといわねばならない。

なお従来一般に鹿児島県民についてその子供に対する躰・教育方針は厳格であり、男女の差別がきびしい、あるいは家父長的な家制度を固持しているという観念像をもっている人が多くいるが、しかしこれら三領域に関してはそのような観念像はわれわれの調査結果とは一致しない。特に20～30才の年代のものには適合しない。権威主義領域においてはすべての年齢層特に60才以上の年代において全体的にもまた男女両群とも権威主義への傾向が強いことが看取される。

3.3 鹿児島県男女の通有的性格特徴及び特異的性格特徴

3.3.1 項目別の男女の通有的及び特異的性格特徴の検出

後にかかげた表16は項目選択肢に対する男女の回答率を集計表示したものである。同時にこれらの回答率にもとづいて表2に示した方式によって決定した各項目選択肢のパターンも表示してあ

る。表16にもとづいて各パターンに属する項目選択肢をあげると次のとおりである。

(A) $P_1=34$ 項目64選択肢。これは三年令層のすべてにおいて男女間に有意差のないもの、従ってその内容は鹿児島県の男女の通有的性格特徴とみなすことができる。(内容の記述は省略) 2.2イロハ, 2.3イ, 2.4イハ, 2.5ロハ, 3.1健康, 金財, 3.2イロ, 3.3イロハ, 3.4イハ, 3.5イロハ, (3.6.1ロ) 3.6.2生活様式, 住居, 習慣, 3.7ロ, 4.1イハ, 4.2ハニ, 5.1イロハ, 5.2ハ, 5.3イロハ, 5.4ハ, 5.5(ハニ), 5.6(イロ), 6.1イロ, 6.2イ, 6.3ハ, 6.4ハ, 6.5イ, 7.1イ, 7.2ハ, 7.3ロハ, 7.4イロハ, 7.5イ, 8.1ハ, 8.2イロ, 8.3イロハ, 8.4ロハホ, 8.5イロハ。 P_1 に分類される項目選択肢数が多いことが注目される。

(B) 一比較対においてのみ有意差のある項目選択肢。

$P_4=6$ 項目8選択肢。これは20~39才の年令層においてのみ有意差のみとめられるものである。項目選択肢の次のカッコ内の+-の符号は回答率の大小を, また符号は左から右へ男女の順に記してある。以下同様。(a)(+-)型のもの, 2.4ロ, 3.6.2芸術, 家族制度, 8.2ハ, 8.4ハ。(b)(-+)型のもの, 3.1家族, 4.8イニ。

$P_3=12$ 項目15選択肢。これは40~59才(40才台)においてのみ有意差のみとめられるものである。(a)5.5(イロ), 6.3ロ, 7.2イ, 7.3イ, 8.1ロ。(b)2.1ロ, 3.3ホ, 4.2ロ, 6.3イ, 6.4イ, 6.5ロ, 7.1ロ, 7.2ロ, 7.5ロ, 8.1イ。

$P_2=12$ 項目14選択肢。これは60才(50才)以上の年代においてのみ有意差のみとめられるものである。(a)2.1ハ, 2.3ロ, 2.5イ, 3.2ハ, 3.3ニハ, (3.6.1イ), 4.2イ, 5.6(ハニ), 6.1ハ, 6.2ロ, 6.5ハ, 7.1ハ, (b)2.3ハ, 7.5ハ。

(C) 二比較対において有意差のある項目選択肢。

$P_5=3$ 項目3選択肢。これは40才以上の二年令層においてともに有意差のみとめられるものである。項目選択肢の次のカッコ内の符号は前記の一对がより若い年令層の, 後記の一对はより年長の年令層を示し, 対内は左から右へ男女の回答率の符号である。以下同様。(a)(+-, +-)型, 3.4ロ, 7.5ニ, (b)(-+, -+)型, 3.6.2礼儀作法。

$P_6=3$ 項目4選択肢。これは20~39才, 40~59才(40才台)の二年令層において有意差のあるものである。(a)2.1イ, 3.1幸福愛情など。(b)3.1子供, 3.7ニ。

$P_7=2$ 項目4選択肢。これは20~39才, 60才(50才)以上の二年令層において有意差のみとめられるものである。(a)5.2ロ, 5.4ロ。(b)5.2イ, 5.4イ。

(D) $P_8=4$ 項目6選択肢。これは三年令層のすべてにおいて有意差のみとめられるものである。

(a)(+-, +- , +-)型, 3.6.2道徳, 3.7ハ, 4.1ロ, 6.4ロ。(b)(-+, -+, -+)型, 3.6.2和服, 3.7イ。このパターンに属する項目選択肢において男性群は三年令層を通じて一貫して女性群よりも伝統的道徳の保持, 内面志向型生活方式の選好, 因果応報説への不信が高い。これに反して女性群は和服の保存, 伝統志向型生活方式の選好の点において

一貫して男性群より高い。

3.3.2 領域別及全項目を通じての男女間の比較

表16の資料にもとづいて項目選択肢の類型化（現代型，中間型，前代型）及び項目の数量化を行った結果は既に表11，12，13，14にかかげてある。表12，13の資料に関しては男女間に差異は何ら発見できない。また表14の総平均についてもいずれの年齢層においても男女間に5%水準で有意な差異はみとめられない。男女とも高年齢になるほど前代型に傾斜してはいるが，いずれも中間型である。

表17 男女の年齢層別総平均のt検定結果

年 令	20~39	40~59 (40台)	60以上 (50以上)
t	0.071	0.358	0.270

項目別には，3.3.1に記したように，三年令層のいずれにおいても男女間に有意差のない項目選択肢が極めて多数存している。しかし一あるいは二，あるいは三年令層において有意差がみとめられる項目選択肢もかなりある。これら

の項目選択肢はたがいに相殺しあって，領域別及全項目を通じては男女ともすべて中間型におちついている。

4 要 約

調査目的—鹿児島県の県民性（主として態度的特性）の実態把握。調査期間—昭和41.10~同44.7。方法—面接調査法。対象—選挙有権者。標本等について—標本数2,147人。最終的には等間隔抽出法によって選定。有効回答者数1,557人，（生粋の鹿児島人とみなされるもの1,322人，その他235人）。本報告は前記の生粋の鹿児島人の回答を年齢要因から整理分析したものである。回答者の年齢を20~39才，40~59才，60才以上の3つに層別した。調査票—35個の質問項目，うち21項目は統計数理研究所の国民性調査票から採用。

結 果

面接調査資料の整理法—(1)項目選択肢別に回答率を算出した。(2)項目選択肢をその内容によって現代型，中間型，前代型の3つに類型化した。(3)前記の三類型に3点，2点，1点を与えて，各項目を数量化した。(4)領域別に及び全項目を通じて平均値を算出した。

結果は(1)全国資料との比較を通じて検出された三年令層の鹿児島県民の特有的性格特徴，(2)県内比較を通じて検出された三年令層の通有的性格特徴と特異的性格特徴，(3)県内比較を通じて検出された男女の通有的性格特徴と特異的性格特徴の三部にわかれる。

(1)全国資料との比較を通じて。(a)項目選択肢別，鹿児島県民と全国の回答率の間に三年令層とも有意差がみとめられない項目選択肢が7項目7選択肢あった。これらは国民的性格特徴であるということができよう。それ以外の項目選択肢においては一，あるいは二，あるいは三年令層において両者の回答率間に有意差がみとめられた。この三年令層のすべてにおいて有意差が存するものはすぐれて鹿児島県民の特有的性格特徴を示すものであるということが出来る。それらのうち鹿

鹿児島県民の回答率が有意に高いものが9項目10選択肢ある。例えば3.1最も大切なものは健康、5.1自由主義教育の肯定、5.5中学校の男女共学制の支持。鹿児島県民の回答率が有意に低いものが7項目7選択肢ある。例えば2.1同調性に反対、2.4政治家への一任に反対、5.4金銭についての早期教育の肯定。(b)領域別及び全項目を通じての特有的性格特徴。領域別年齢層別にみて類型を異にするのは年齢20~39才では対身辺領域で(±, -), 社会政治領域で(±+), 躰・教育領域で(+±)である。40~59才及び60才以上の年齢層には類型を異にするものはない。ただ躰・教育領域では鹿児島県民のそれが現代型(+)に極めて近い。全項目を通じての年齢層別総平均に関しては両者間に有意な差がみとめられるものはない。いずれも中間型である。これは+-の相殺作用の結果である。

(2) 県内年齢層間比較を通じて。(a)項目選択肢別。三年令層のいずれの比較対においても有意差がみとめられない項目選択肢の内容は鹿児島県民の通有的性格特徴であると考えられる。そのようなものが県民全体では26項目44選択肢、男性群28項目57選択肢、女性群27項目46選択肢あって何れもその数が多いことが注目される。これに対して三比較対のすべてにおいて有意差があるものは県民の年齢層別の特異的性格特徴を示すものと考えられるが、県民全体では14項目20選択肢、男性群5項目6選択肢、女性群13項目15選択肢ある。男性群において数が少ないことが注目される。(b)領域別及び全項目を通じての類型、領域別では全体的にも男女別でも殆んどすべてが中間型に位置している。従来一般の鹿児島人に関する観念像とは逆に、躰・教育、男女差別、家庭の領域では前代型は皆無であり、中間型から現代型への傾向を示すものがかかり存している。これに対して権威主義領域では全般的に前代型への傾斜が看取される。年齢層別総平均では高年齢ほど前代型に近接してはいるが、いずれも中間型である。

(3) 県内男女間比較を通じて。(a)項目選択肢別。男女の通有的性格特徴と考えられるものが34項目64選択肢あり、その数の多いことが注目される。三年令層三様の特徴と考えられるものとして4項目6選択肢が検出された。男性群の回答率が一貫して高いものは伝統的徳の保持、内面志向型生活方式の選好、因果応報の不信の三点であり、女性群が一貫して高いものは和服の保存、伝統志向型生活方式の選好の二点である。(b)領域別及び全項目を通じての類型。類型に関しては有意な差異のあるものは皆無であり、いずれも中間型に位置している。

表3 年齢層別の鹿児島県民の特有的性格特徴
—項目選択肢別の回答率とパターン

項目 選択肢	パ タ ー ン	20~39才		40~59才 (40才台)		60才以上 (50才以上)		
		鹿 児 島 県	全 国	鹿 児 島 県	全 国	鹿 児 島 県	全 国	
2.1	イ 口	P ₈ P ₄	19.5 22.5	43.4 33.2	22.6 33.6	42.3 33.8	16.4 52.2	29.1 47.9
2.3	イ 口 ハ	P ₄ P ₈ P ₆	51.7 38.2 3.9	41.5 24.4 20.5	43.8 47.7 3.2	41.5 23.5 21.9	33.0 36.2 11.5	36 19 14
2.4	イ 口	P ₄ P ₈	22.2 14.2	30.8 52.3	34.0 8.5	37.9 39.9	45.8 5.8	42 23
3.1	健 子 (家 族) (家 庭) (幸 福) (愛 情) 金 財 産	P ₈ P ₃ P ₅ P ₃ P ₁	48.6 6.9 14.9	20.2 9.7 18.3	49.7 9.9 8.1	18.0 15.9 13.4	49.8 12.1 4.0	14.8 16.1 15.2
3.2	イ 口	P ₈ (P ₁)	57.9 4.7	77.5 5.7	67.0 0.9	84 3	68.0 1.2	83 2

3.3	イロハニホヘ	P ₆ (P ₁)	10.6	16.4	11.9	18.9	12.8	15	5.5	イロハニ	P ₈	90.5	74.3	83.3	62.8	58.3	44.8		
		P ₈	5.0	2.0	2.9	2.0	5.1	4			P ₈	4.1	16.2	9.7	21.1	15.9	25.9		
		P ₆	50.5	33.3	37.5	20.8	24.8	11			6.1	イロハ	P ₁	26.5	29.4	31.0	32	31.9	33
		P ₃ (P ₁)	2.6	5.7	5.0	8.5	6.6	6.0					P ₈	12.5	2.1	11.9	3	18.1	3
4.1	イロ	P ₈	6.7	15.7	9.8	23	13.1	21	6.2	イロ	P ₃	14.7	12.6	9.3	17	5.8	10.8		
		P ₂	60.7	59	57.4	64	41.2	57			P ₆	73.7	82.1	83.6	75.3	71.5	68.9		
4.2	イロハニ	P ₈	67.3	59.7	78.2	66.8	73.6	63	6.3	イロハ	P ₂	18.7	17.4	25.2	23.1	36.7	22.9		
		P ₆ (P ₁)	3.8	3.57	1.1	5.7	4.3	9.1			P ₈	53.4	42.6	49.9	33.9	34.9	21.2		
5.1	イロ	P ₆	56.0	18.6	51.1	14	49.9	11	7.4	イロハ	P ₁	27.6	30.7	24.1	29.3	26.9	18.6		
		P ₈	23.1	59.7	32.0	69	31.5	66			P ₂ (P ₁)	77.9	79	85.2	79.8	83.5	68.2		
5.2	イロ	P ₆	17.1	30	31.8	40	40.5	46	7.4	イロハ	(P ₁)	7.0	7.1	5.0	5.7	5.4	9.9		
		P ₈	65.9	50.6	60.1	36	48.3	30			P ₅	14.4	13	8.5	14.1	6.8	13.2		
5.4	イロ	P ₈	38.4	61.7	48.4	63	55.3	74	注. 上表においてカッコに入れてあるPは回答率がいずれも極めて低いことを示す。以上同様。										
		P ₃	24.3	26.7	16.0	25	15.3	16											

表9 年齢層別の鹿児島県民の通有的性格特徴と特異的性格特徴
一項目選択肢別の回答率とパターン

項目 選択肢	パタ ーン	男 性 群			パタ ーン	女 性 群			パタ ーン	県 全 体			
		20~39才	40~59才 (40才台)	60才以上 (50以上)		20~39才	40~59才 (40才台)	60才以上 (50以上)		20~39才	40~59才 (40才台)	60才以上 (50以上)	
2.1	イロハ	P ₃	25.1	28.7	18.7	P ₁	15.3	17.5	14.3	P ₃	19.5	22.6	16.4
		P ₅	21.0	27.0	47.0	P ₈₊	23.6	39.2	57.1	P ₈₊	22.5	33.6	52.2
		P ₅	52.0	43.0	31.3	P ₈₋	55.9	40.9	15.0	P ₈₋	54.2	41.9	23.0
2.2	イロハ	P ₈₊	29.1	46.9	60.4	P ₈₊	34.0	47.0	68.0	P ₈₊	31.9	47.0	64.3
		P ₁	8.1	6.6	1.4	P ₁	2.8	4.1	2.8	P ₁	5.1	5.3	2.1
		P ₇	61.0	45.6	36.0	P ₈₋	58.0	45.6	27.7	P ₈₋	59.4	45.6	31.8
2.3	イロハ	P ₇	56.4	46.5	37.7	P ₅	48.0	41.5	28.4	P ₈₋	51.7	43.8	33.0
		P ₄	35.0	48.5	42.8	P ₅	40.8	47.0	29.8	P ₆	38.2	47.7	36.2
		P ₁	4.9	1.7	7.2	P ₅	3.1	4.5	15.6	P ₅	3.9	3.2	11.5
2.4	イロハ	P ₈₊	21.7	32.4	47.1	P ₇	22.6	35.5	44.6	P ₈₊	22.2	34.0	45.8
		P ₇	18.1	10.2	8.7	P ₂	11.1	7.0	2.9	P ₂₊	14.2	8.5	5.8
		P ₅	44.8	48.0	29.0	P ₅	48.1	43.2	23.7	P ₅	46.7	45.4	26.3
2.5	イロハ	P ₇ (P ₁)	49.3	63.1	66.4	P ₆	46.7	64.1	50.4	P ₇	47.8	63.7	58.3
		(P ₁)	9.4	1.2	4.4	P ₁	4.5	1.0	2.8	P ₁	6.7	1.1	3.6
		P ₅	38.6	32.8	21.9	P ₇	38.7	27.9	22.7	P ₈₋	38.6	30.1	22.3
3.1	健康 福祉 金	P ₁	49.3	49.3	52.2	P ₁	48.1	50.0	47.5	P ₁	48.6	49.7	49.8
		P ₁	3.2	5.3	9.7	P ₁	9.8	12.2	14.4	P ₁	6.9	9.0	12.1
		P ₁	7.3	5.3	5.2	P ₈₋	20.7	10.4	2.9	P ₃	14.9	8.1	4.0
		P ₂	25.6	21.4	14.1	P ₁	9.8	11.8	14.4	P ₁	16.7	16.2	14.3
		P ₁	7.8	9.1	12.7	P ₁	4.6	9.4	10.1	P ₁	6.0	9.2	11.4
3.2	イロハ	P ₂	58.2	64.5	69.1	P ₇	57.6	68.9	70.3	P ₇	57.9	67.0	68.0
		P ₁	4.1	2.2	1.6	P ₁	5.2	0.0	1.3	P ₁	4.7	0.9	1.2
		P ₁	31.8	30.4	25.2	P ₅	27.4	24.0	15.0	P ₅	29.3	26.8	20.1

3.3	イ 口 ハ ニ ホ へ	P ₁	11.7	10.9	10.4	P ₁	9.7	12.6	15.0	P ₁	10.6	11.9	12.8
		(P ₁)	1.5	3.8	5.2	P ₁	7.6	2.1	5.0	P ₁	5.0	2.9	5.1
		P ₈₋	50.7	40.3	27.6	P ₈₋	50.3	35.1	22.1	P ₈₋	50.5	37.5	24.8
		P ₅	7.2	7.1	14.9	P ₅	8.7	11.9	29.3	P ₅	8.0	9.8	22.3
		P ₃	25.8	20.2	30.6	P ₄	21.5	33.3	26.4	P ₄	23.4	33.1	28.5
		P ₅	3.3	5.0	11.2	(P ₁)	2.1	4.9	2.2	P ₁	2.6	5.0	6.6
3.4	イ 口 ハ	P ₅	7.2	7.5	14.8	P ₁	11.1	10.5	12.0	P ₁	9.4	9.1	13.4
		P ₁	48.4	51.0	42.2	P ₅	41.1	40.6	27.5	P ₅	44.3	45.4	34.7
		P ₁	39.5	38.2	36.3	P ₁	36.6	37.1	34.5	P ₁	37.8	37.6	35.4
3.5	イ 口 ハ	P ₁	60.7	60.4	62.8	P ₁	60.3	63.8	59.3	P ₁	60.5	62.2	61.0
		P ₁	7.1	5.4	5.8	P ₁	5.2	4.9	7.1	P ₁	6.1	5.1	6.5
		P ₁	29.5	32.9	27.0	P ₁	30.7	27.9	22.1	P ₁	30.1	30.2	24.5
3.6.1	イ 口	P ₁	91.8	93.4	94.8	P ₂	92.3	89.7	78.3	P ₂	92.1	91.4	86.4
		(P ₁)	1.8	1.7	0.0	(P ₁)	1.1	0.7	2.9	P ₁	1.4	1.1	1.5
3.6.2	生活様 式和住 居芸術 (礼儀) 作法 道徳 (家族) 制度 習慣	P ₁	23.0	23.3	23.7	P ₃	23.6	19.1	29.4	P ₁	23.4	21.1	26.4
		P ₇	27.7	18.1	11.9	P ₁	43.2	41.3	41.2	P ₇	36.5	30.2	25.5
		P ₁	20.9	17.1	16.1	P ₁	16.4	19.6	20.6	P ₁	18.4	18.4	18.2
		P ₄	37.2	28.6	15.3	P ₂	28.0	24.3	15.7	P ₅	32.0	26.4	15.5
		P ₁	35.6	32.4	33.2	P ₇	34.4	48.3	54.9	P ₁	34.9	40.7	42.7
		P ₁	50.8	57.6	58.5	P ₁	36.0	41.7	39.2	P ₄	42.4	49.3	49.5
		P ₇	18.8	30.5	35.6	P ₇	12.0	31.3	35.3	P ₇	15.0	30.9	35.5
		P ₃	18.8	14.8	25.4	P ₁	19.2	20.4	24.5	P ₃	19.0	17.7	25.0
3.7	イ 口 ハ ニ	P ₂	5.4	6.6	12.4	P ₂	13.3	18.9	24.3	P ₂	4.9	13.3	18.7
		P ₁	15.8	16.5	19.0	P ₅	13.3	14.0	27.0	P ₅	14.4	15.1	23.0
		P ₅	60.4	62.8	47.4	P ₅	45.6	43.4	28.4	P ₅	52.1	52.3	37.8
		P ₁	17.1	13.6	17.5	P ₅	26.2	21.7	13.5	P ₂	22.5	18.0	15.1
4.1	イ 口 ハ	P ₂	7.7	8.8	15.0	P ₁	5.9	10.6	11.1	P ₁	6.7	9.8	13.1
		P ₅	68.0	68.4	50.0	P ₃	55.1	49.2	32.4	P ₅	60.7	57.4	41.2
		P ₁	17.1	18.4	17.9	P ₁	21.6	25.4	20.1	P ₁	19.6	22.4	19.0
4.2	イ 口 ハ ニ	P ₄	70.2	82.0	78.8	P ₄	64.9	75.0	68.3	P ₄	67.3	78.2	73.6
		P ₄	24.8	16.7	19.0	P ₄	32.3	24.0	25.2	P ₇	29.0	20.6	22.1
		(P ₁)	1.8	0.9	0.08	(P ₁)	1.4	1.0	5.8	(P ₁)	1.6	0.5	3.2
		(P ₁)	3.1	0.5	1.1	(P ₁)	1.4	0.0	1.7	(P ₁)	2.2	0.2	1.2
5.1	イ 口 ハ	P ₁	54.1	54.7	53.8	P ₂	57.5	48.4	46.1	P ₁	56.0	51.1	49.9
		P ₂	20.2	28.5	29.2	P ₇	25.3	34.6	33.9	P ₇	23.1	32.0	31.5
		P ₁	21.6	16.8	16.7	P ₁	15.4	16.5	17.1	P ₁	18.1	16.6	16.9
5.2	イ 口 ハ	P ₇	12.2	29.0	35.7	P ₈₊	21.0	33.9	45.7	P ₈	17.1	31.8	40.5
		P ₂	70.7	62.3	54.5	P ₅	62.1	58.5	41.8	P ₅	65.9	60.1	48.3
		P ₁	11.3	8.7	8.2	P ₁	13.3	7.1	9.1	P ₁	12.4	7.8	8.6
5.3	イ 口 ハ	P ₇	60.5	75.1	73.7	P ₇	58.4	60.1	70.2	P ₇	59.3	71.9	72.0
		(P ₁)	3.2	0.7	5.1	(P ₁)	3.8	1.4	0.0	P ₁	3.6	1.3	2.5
		P ₇	32.6	22.5	16.2	P ₇	33.2	24.0	19.1	P ₇	33.4	23.3	18.0
5.4	イ 口 ハ	P ₇	31.5	43.4	47.6	P ₅	43.8	52.2	63.1	P ₇	38.4	48.4	55.3
		P ₇	31.5	17.6	21.5	P ₂	18.8	14.8	9.0	P ₇	24.3	16.0	15.3
		P ₁	32.0	38.2	28.5	P ₁	29.5	29.7	22.5	P ₃	30.8	33.3	25.5
5.5	イ 口 ハ ニ	P ₅	90.1	88.5	63.2	P ₈₋	90.9	79.0	53.6	P ₈	90.5	83.3	58.3
		P ₅	5.4	7.0	18.1	P ₇	3.5	11.9	13.7	P ₅	4.1	9.7	15.9

5.6	イ ロ ハ ニ	P ₅ P ₅	71.6 18.1	68.6 24.1	46.7 34.3	P ₈₋ P ₇	73.0 13.6	62.7 21.2	41.1 22.7	P ₈ P ₈	72.1 15.5	65.4 22.6	43.9 28.4
6.1	イ ロ ハ	P ₁ P ₁ P ₂	27.1 12.7 58.4	30.7 13.1 52.6	30.1 17.1 48.4	P ₂ P ₃ P ₅	26.0 12.5 57.8	31.3 11.0 53.3	33.7 19.1 39.0	P ₁ P ₁ P ₅	26.5 12.5 58.0	31.0 11.9 53.0	31.9 18.1 43.7
6.2	イ ロ	P ₂ P ₄	17.2 72.0	10.6 82.9	7.4 80.9	P ₁ P ₈	12.8 75.0	8.1 84.2	4.3 62.4	P ₂ P ₆	14.7 73.7	9.3 83.6	5.8 71.5
6.3	イ ロ ハ	P ₅ P ₅ P ₁	16.0 55.3 28.3	16.9 57.0 25.2	31.4 40.1 26.3	P ₈₊ P ₅ P ₁	20.9 51.9 27.0	32.2 43.9 23.2	42.0 29.7 27.5	P ₈₊ P ₅ P ₁	18.7 53.4 27.6	25.2 49.9 24.1	36.7 34.9 26.9
6.4	イ ロ ハ	P ₈₊ P ₈₋ P ₁	29.0 47.1 17.6	44.2 36.0 17.4	59.4 21.0 14.5	P ₈₊ P ₈₋ P ₂	31.5 34.9 23.9	54.2 20.8 19.4	67.4 9.4 13.8	P ₈₊ P ₈₋ P ₂	30.4 40.2 21.2	49.6 27.7 18.5	63.4 15.2 14.1
6.5	イ ロ ハ	P ₁ P ₃ P ₁	7.3 45.5 47.3	9.9 43.6 46.5	5.1 55.1 37.7	P ₁ P ₅ P ₅	7.7 49.8 40.1	7.0 52.6 39.0	6.4 63.1 26.2	P ₁ P ₅ P ₅	7.5 47.9 43.2	8.3 48.5 42.5	5.7 59.1 31.9
7.1	イ ロ ハ	P ₅ P ₃ P ₂	51.6 8.5 37.2	54.7 5.3 39.2	33.8 12.5 47.8	P ₁ P ₄ P ₁	52.8 5.9 39.5	49.7 12.2 33.9	45.0 9.3 34.3	P ₅ P ₁ P ₁	52.3 7.1 38.5	52.0 9.0 36.3	39.5 10.5 40.9
7.2	イ ロ ハ	P ₁ P ₁ P ₁	33.3 33.8 30.6	37.1 28.6 32.2	35.5 24.6 37.7	P ₁ P ₆ P ₄	28.5 34.7 34.7	23.7 48.1 26.8	27.0 34.0 30.5	P ₁ P ₃ P ₁	30.6 34.3 32.9	29.9 39.1 29.3	31.2 29.4 34.1
7.3	イ ロ ハ	P ₃ P ₅ P ₁	11.3 68.3 19.5	13.4 72.0 13.0	5.8 81.2 12.3	P ₂ P ₇ P ₁	8.4 67.6 22.3	5.9 75.3 16.7	1.4 80.1 16.3	P ₁ P ₈₊ P ₇	9.6 67.9 21.2	9.4 73.7 15.0	3.6 80.6 14.3
7.4	イ ロ ハ	P ₁ P ₁ P ₁	81.4 5.4 11.8	86.0 4.5 7.9	87.6 5.8 6.6	P ₄ P ₁ P ₇	75.1 8.1 16.5	84.6 5.2 9.1	79.4 5.0 7.1	P ₄ P ₁ P ₂	77.9 7.0 14.4	85.2 5.0 8.5	83.5 5.4 6.8
7.5	イ ロ ハ ニ	P ₁ P ₂ P ₁ P ₅	8.2 20.9 5.5 56.8	10.0 25.1 10.9 52.3	8.1 31.9 11.9 40.0	P ₁ P ₄ P ₅ P ₈₋	7.3 24.3 8.7 56.1	7.4 35.2 12.0 43.3	5.0 39.9 24.3 27.9	P ₁ P ₇ P ₅ P ₈₋	7.7 23.1 7.3 56.4	8.6 30.6 11.5 47.4	6.5 32.4 18.2 33.8
8.1	イ ロ ハ	P ₈₊ P ₅ P ₁	8.8 86.7 0.0	16.9 80.2 0.8	39.1 55.1 2.9	P ₈₊ P ₇ (P ₁)	10.5 82.1 2.1	26.6 65.4 2.1	36.7 57.6 2.1	P ₈₊ P ₈₋ (P ₁)	9.8 84.1 1.2	22.2 72.2 1.5	37.9 56.3 2.5
8.2	イ ロ ハ	P ₂ P ₁ P ₁	39.8 41.9 18.3	35.8 48.0 16.0	32.7 44.5 22.7	P ₇ P ₁ P ₈	48.7 40.8 10.5	35.6 45.2 18.2	34.2 38.3 27.5	P ₇ P ₁ P ₅	44.8 41.3 14.0	35.7 47.1 17.2	33.5 41.3 25.2
8.3	イ ロ ハ	P ₂ P ₂ P ₁	80.5 14.1 5.5	86.6 10.0 3.3	92.7 4.4 2.9	P ₅ P ₅ (P ₁)	81.9 14.2 3.2	84.6 12.9 2.5	92.9 5.0 2.1	P ₅ P ₅ P ₁	81.3 14.1 4.2	85.5 11.6 2.9	92.8 4.7 2.5
8.4	イ ロ ハ ニ ホ ヘ	P ₇ P ₁ P ₁ P ₈₊ (P ₁) P ₇	13.1 14.0 12.2 18.6 0.4 61.5	24.9 17.0 14.0 26.6 0.4 32.8	34.1 21.2 12.1 40.2 1.5 38.6	P ₁ P ₇ P ₄ P ₁ P ₁ P ₁	29.4 12.4 13.1 28.7 0.7 40.1	29.2 22.9 20.1 30.3 1.1 39.8	35.9 21.1 14.1 36.6 4.9 31.0	P ₅ P ₇ P ₁ P ₅ (P ₁) P ₇	22.3 13.1 12.7 24.3 0.6 49.5	27.2 20.2 17.3 28.6 0.8 36.6	35.0 21.2 13.1 38.3 3.3 34.7
8.5	イ ロ ハ	P ₁ P ₁ P ₁	34.8 27.8 37.3	33.9 31.5 34.5	32.7 28.6 38.8	P ₁ P ₁ P ₄	37.5 31.3 31.3	33.3 28.1 38.5	39.1 27.6 33.3	P ₁ P ₁ P ₁	36.3 29.7 34.0	33.6 29.7 36.7	35.7 28.1 36.2

表16 鹿児島県男女の通有的性格特徴と特異的性格特徴
一年令層別男女別の項目選択肢の回答率とパターン

項目	パターン	20~39才		40~59才 (40才台)		60才以上 (50才以上)	
		男	女	男	女	男	女
2.1 イロハ	P ₆	25.1	15.3	28.7	17.5	18.7	14.3
	P ₃	21.0	23.6	27.0	39.2	47.0	57.1
	P ₂	52.0	54.2	42.0	40.9	31.3	15.0
2.2 イロハ	P ₁	29.1	34.0	46.9	47.0	60.4	68.0
	P ₁	8.1	2.8	6.6	4.1	1.4	2.8
	P ₁	61.0	58.0	45.6	45.6	36.0	27.7
2.3 イロハ	P ₁	56.0	48.0	46.5	41.5	37.7	28.4
	P ₂	35.0	40.8	48.5	47.0	42.8	29.8
	P ₂	4.9	3.1	1.7	4.5	7.2	15.6
2.4 イロハ	P ₁	21.7	22.6	32.4	35.5	47.1	44.6
	P ₄	18.1	11.1	10.2	7.0	8.7	2.9
	P ₁	44.8	48.1	48.0	43.2	29.0	23.7
2.5 イロハ	P ₂	49.3	46.7	63.1	64.1	66.4	50.4
	P ₁	9.4	4.5	0.9	1.0	4.4	2.8
	P ₁	38.6	38.7	32.8	27.9	21.9	22.7
3.1 健子家幸金 康供族愛財	P ₁	49.3	48.1	49.3	50.0	52.2	47.5
	P ₆	3.2	9.8	5.3	12.2	9.7	14.4
	P ₄	7.3	20.7	5.3	10.4	5.2	2.9
	P ₆	25.6	9.8	21.4	11.8	14.1	14.4
3.2 イロハ	P ₁	58.2	57.6	64.5	68.9	69.1	70.3
	P ₁	4.1	5.2	2.2	0.0	1.6	0.8
	P ₂	31.8	27.4	30.4	24.0	25.2	15.0
3.3 イロハニホヘ	P ₁	11.7	9.7	10.9	12.6	10.4	15.0
	P ₁	1.7	7.6	3.8	2.1	5.2	5.0
	P ₁	50.7	50.3	40.3	35.1	27.6	22.1
	P ₂	7.0	8.7	7.1	11.9	14.9	29.3
	P ₃	25.8	21.5	20.2	33.3	30.6	26.4
3.4 イロハ	P ₁	7.2	11.1	7.5	10.5	14.8	12.0
	P ₅	48.4	41.1	51.0	40.6	42.2	27.5
	P ₁	39.5	36.1	38.2	37.1	36.3	34.5
3.5 イロハ	P ₁	60.7	60.3	60.4	63.8	62.8	59.3
	P ₁	7.1	5.2	5.4	4.9	5.8	7.1
	P ₁	29.5	30.7	32.9	27.9	27.0	22.1
3.6.1 イロ	P ₂	91.8	92.3	93.4	89.7	94.8	78.3
	P ₁	1.8	1.6	1.7	1.2	0.0	2.9
3.6.2 生様和住芸礼作道家制習 活式服居術儀法徳族度慣	P ₁	23.0	23.6	23.3	19.1	23.7	29.4
	P ₈	27.7	43.2	18.1	41.3	11.9	41.2
	P ₁	20.9	16.4	17.1	19.6	16.1	20.6
	P ₄	37.2	28.0	28.6	24.3	15.3	15.7
	P ₅	35.6	34.4	32.4	48.3	32.2	54.9
	P ₈	50.8	36.0	57.6	41.7	58.5	39.2
3.6.2 生様和住芸礼作道家制習	P ₄	18.8	12.0	30.5	31.3	35.6	35.3
	P ₁	18.8	19.2	14.8	20.4	25.4	24.5

3.7 イロハニ	P ₈	5.4	13.3	6.6	18.9	12.4	24.8
	P ₁	15.8	13.3	16.5	14.0	19.0	27.0
	P ₆	60.4	45.6	62.8	43.4	47.4	28.4
4.1 イロハ	P ₈	17.1	26.7	13.6	21.7	17.5	13.5
	P ₁	7.7	5.9	8.8	10.5	15.0	11.1
	P ₁	68.0	55.1	68.4	49.2	50.0	32.4
4.2 イロハニ	P ₁	17.1	21.6	18.4	25.4	17.9	20.1
	P ₂	70.2	64.9	82.0	75.0	78.8	68.3
	P ₃	24.8	32.3	16.7	24.0	19.0	25.2
5.1 イロハ	(P ₁)	1.8	1.4	0.9	1.0	0.7	5.8
	(P ₁)	3.1	1.4	0.4	0.1	1.5	0.7
	P ₁	54.1	57.5	54.7	48.4	53.8	46.1
5.2 イロハ	P ₁	20.2	25.3	28.5	34.6	29.2	33.9
	P ₁	21.6	15.4	16.8	26.5	26.7	17.1
	P ₁	12.2	21.0	29.0	33.9	35.7	45.7
5.3 イロハ	P ₇	70.7	62.2	62.3	58.5	54.5	41.8
	P ₁	11.3	13.3	8.7	7.1	8.2	9.1
	P ₁	60.5	58.4	75.1	69.1	73.7	70.2
5.4 イロハ	(P ₁)	3.2	3.8	1.2	1.4	5.1	0.0
	P ₁	33.6	13.3	22.5	24.0	16.8	19.1
	P ₁	31.5	43.8	43.4	52.2	47.6	63.1
5.5 イロハニ	P ₇	31.5	18.8	17.6	14.8	21.5	9.0
	P ₇	31.5	18.8	17.6	14.8	21.5	9.0
	P ₁	32.0	29.5	38.2	29.7	28.5	22.5
5.6 イロハニ	P ₃	90.1	90.9	88.5	79.0	63.1	53.6
	P ₁	4.4	3.5	7.0	11.9	18.1	13.7
6.1 イロハ	P ₁	71.6	73.0	68.6	62.9	46.7	41.1
	P ₂	18.1	13.6	24.1	21.2	34.3	22.7
6.2 イロ	P ₁	27.1	26.0	30.7	31.3	30.1	33.7
	P ₁	12.7	12.5	13.1	11.0	17.1	19.1
	P ₂	58.4	57.8	52.6	53.3	48.4	39.0
6.3 イロハ	P ₁	17.2	12.8	10.6	8.1	7.4	4.3
	P ₂	72.0	75.0	82.9	84.2	80.9	62.4
	P ₃	16.0	20.9	16.9	32.2	31.4	42.0
6.4 イロハ	P ₃	55.3	51.9	57.0	43.9	40.1	29.7
	P ₃	28.3	27.0	25.2	23.2	26.3	27.5
	P ₁	29.0	31.5	44.2	54.2	59.4	67.4
6.5 イロハ	P ₈	47.0	34.9	36.0	20.8	21.0	9.4
	P ₁	17.6	23.9	17.4	19.4	14.5	13.8
	P ₁	7.3	7.7	9.9	7.0	5.1	6.4
7.1 イロハ	P ₃	45.5	49.8	43.6	52.6	55.1	63.1
	P ₂	47.3	40.1	46.5	39.0	37.7	26.2
	P ₁	51.6	52.8	54.7	49.7	33.8	45.0
7.2 イロハ	P ₃	8.5	5.9	5.3	12.2	12.5	9.3
	P ₂	37.2	39.5	39.2	33.9	47.8	34.3
	P ₃	33.3	28.5	37.1	23.7	35.5	27.0
7.3 イロハ	P ₃	33.8	34.7	28.6	48.1	24.6	34.0
	P ₁	30.6	34.7	32.2	26.8	37.7	30.5
	P ₁	11.3	8.4	13.4	5.9	5.8	1.5
7.3 イロハ	P ₁	68.3	67.6	72.0	75.3	81.2	80.1
	P ₁	19.5	22.3	13.0	16.7	12.3	16.3

7.4	イ ロ ハ	P ₁	81.4	75.1	86.0	84.6	87.6	79.4
		P ₁	5.4	8.1	4.5	5.2	5.8	5.0
		P ₁	11.8	16.5	7.9	9.1	6.6	7.1
7.5	イ ロ ハ ニ	P ₁	8.2	7.3	10.0	7.4	8.1	5.0
		P ₃	20.9	24.7	25.1	35.2	31.9	32.9
		P ₂	5.5	8.7	10.9	12.0	11.9	24.3
		P ₅	56.8	56.1	52.3	43.3	40.0	27.9
8.1	イ ロ ハ	P ₃	8.8	10.5	16.9	26.6	39.1	36.7
		P ₃	86.7	82.1	80.2	65.4	55.1	57.6
		P ₁	0.0	2.1	0.8	2.1	2.9	2.1
8.2	イ ロ ハ	P ₁	39.8	48.7	35.8	35.6	82.7	34.2
		P ₁	41.9	40.8	48.0	45.2	44.5	38.3
		P ₄	18.3	10.5	16.2	18.2	22.7	27.5
8.3	イ ロ ハ	P ₁	80.5	81.9	86.6	84.6	92.7	92.7
		P ₁	14.1	14.2	10.0	12.9	4.4	5.0
		P ₁	5.5	3.2	3.3	2.5	2.9	2.1
8.4	イ ロ ハ ニ ホ へ	P ₄	13.1	29.4	24.9	29.2	34.1	35.9
		P ₁	14.0	12.4	17.0	22.9	21.2	21.1
		P ₁	12.2	13.1	14.1	20.1	12.1	14.1
		P ₄	18.6	28.7	26.6	30.3	40.2	36.6
		P ₁	0.4	0.7	0.4	1.1	1.6	4.9
8.5	イ ロ ハ	P ₁	34.8	37.5	33.9	33.3	32.7	39.1
		P ₁	27.8	31.3	31.5	28.1	28.6	27.6
		P ₁	37.3	31.3	34.5	38.5	38.8	33.3

あとがき

本調査の実施には下記のとおり調査経費の援助をいただいた。ここに記して心から謝意を表します。

1. 昭和 41 年度調査 文部省科学研究費
2. 昭和 42, 43 年度調査 鹿児島大学援助会
3. 昭和 44 年度調査 鹿児島県育英財団